

コンサルタンツ北海道 100号までの歩み



編集の思い出・苦労話

～会誌黎明期のこと～

北海道技術士センター 元広報委員長
技術士（建設部門）

菱 川 幸 雄

北海道技術士センター会誌「コンサルタンツ北海道」は昭和42年4月に第1号が発刊されてから今般36年が過ぎ、本年6月をもって100号発刊の運びとなりましたが、この間、編集にかかわった者の一人としてこれを年次的に、また、足跡的にとりあげてみたいと思います。

会誌発行当初から昭和56年頃までは故水島八郎技術士がほぼ一人で会誌編集に携わりまとめてきましたが、昭和57年ごろからは菱川幸雄技術士、斎藤昭技術士、谷本彰技術士3名が会誌編集の任を引き継ぎ会誌をとりまとめてきました。その後、昭和62年ごろからは北海道技術士センター内において正式に広報委員会としての係が発足したものでしたが、その際更に内田辰英技術士と柏倉宏幸技術士がこれに加わり計5名の委員が会誌編集を担当することになりました。

この期で初めて会長、幹事体制が発足し、「会長」には菱川幸雄技術士（建設部門）を、「幹事」には内田辰英技術士（情報処理部門）そして、委員には斎藤昭（農業部門）、谷本彰（農業部門）、柏倉宏幸（電気電子部門）各技術士があたりやっとならぬ体勢となり、以来概ねこのような形態が継続され、名簿作成や原稿依頼、原稿集めそして会誌編集などを実施してきたものでした。

当時、会員からでも原稿を集める手間はなかなか大変なときで、ましてや、会員以外の学識者からの

特別寄稿原稿ともなるとこれはもう人脈に頼る以外方策はなかったのですが、この特別寄稿文の依頼・手配については当時室蘭工業大学機械工学科名誉教授水野忠治（現日本工学院北海道専門学校教授）技術士の御手配により関係大学および関係機関に所属する方々をご紹介いただき特別寄稿文を会誌に掲載できることとなったものでした。

これらの特別寄稿文は「コンサルタンツ北海道」会誌第49号から第74号まで継続的に掲載することができましたこと、ここにあらためて厚く御礼申し上げます。

会誌の最後にはその号の掲載内容についての「編集後記」を載せるのですが、『コンサルタンツ北海道』会誌第40号から第48号までの編集後記については前述の3名で、第49号から第64号までの編集後記については広報委員会5名によるものであります。編集後記は寄稿文毎に概要および大意を理解し分かりやすい文章として表現する必要があります。これらは自分の専門以外のものであっても寄稿論文の内容をまず理解して始めて文章として表現出来るものでありその点非常に苦労したものでした。

今般、会誌100号発刊の報を受け当時を振り返り、感きわまるものがあります。末長い発展を祈念するものであります。